

阪神・淡路大震災記念礼拝 ヨセナベコンサート

神戸聖ヨハネ教会では、1月15日(日)午後3時より、第5回『よめない1・17』ヨハネYOSENABE Eコンサートを行いました。「阪神・淡路大震災を伝えていくため。そして今、災害等で困難のうちにある方々を覚えるため」という目的で2013年より続けているこのイベント。今回の席上募金は、九州地震被災者支援室(九州教区)にお届けすることになったのですが、支援室の活動に、神戸教区の聖職・信徒が様々な形で参加した繋がりから、熊本より三名の方がお越し下さったのは、本当に嬉しいことでした。



倉本氏による
フラワーアレンジメント

コンサートは当教会の「st.[John's gossellers]」による賛美で幕を開け、熊本県益城町から来られた倉本さんがライブフラワーアレンジメントを披露されました。倉本さんは益城町の園芸店に勤務され、支援室の活動に関わりを持ってこられた方です。熊本復興への

願いを込めて出来上がった作品は、希望の象徴のような姿で、最後までステージを見届けてくれました。続いて、「ウクレレSP」[GRACE GOSPEL CHOIR]による演奏で第一部は終了しました。

第二部の初めには、熊本聖三一教会信徒の原さんによる被災体験のお話に耳を傾けました。原さんと一緒に来られた山崎さんは、ご自身も被災された中、支援室の活動拠点となった熊本聖三一ボランティアセンターの働きを支えてこられました。

そして、マンドリンとピアノ「Due Fiori」の演奏に心を癒された後は、ギター弾き語り「ツキサケ」で大いに盛り上がりました。



「チームだご汁's」による演奏

最後に会場全員で『しあわせ運べるように』神戸・熊本バージョンを歌い、終演となりました。80名以上の参加者に恵まれ、お客さんと出演者みんなで作る温かい空間が、今年も礼拝堂一杯に広がりました。募金総額は72,632円でした。

「チームだご汁's」のステージでは、阪神・淡路大震災を経験した人、熊本地震を経験した人、熊本にボランティア活動を行った人たちが集まって、歌を届けました。

また、1月17日(火)には、午前10時半より阪神・淡路大震災22年記念聖餐式が捧げられました。説教者は瀬山会治司祭(米子聖ニコラス教会牧師・神戸教区社会

部部長)で、東日本大震災における京阪神三教区の被災者救援活動を振り返りながら、「祈り、分かち合い、出かけて行く」というボランティアの姿は、教会の姿と重なるというお話を聞きました。災害等が起こった時、教会が果たすべき役割について考えさせられると同時に、普段の教会のあり方について見直す必要も感じました。正午、点鐘と黙祷を持ち、散会となりました。

「忘れない」と言いますが、震災を経験した人にとっては、「忘れたくても忘れられない」というのが本来なのかもしれません。でも、何もしなければ、いつかは誰も知らない出来事になってしまいます。私は今年、コンサートで20歳前後の人たちと一緒に演奏し、歌を通して震災の記憶が受け継がれていることを実感しました。

神戸教区青年交流会のご案内

日程 3月30日(木)~31日(金)

会場 神戸聖ミカエル教会、神戸教区会館

会費 2,000円

プログラム
 新青年歓迎会。青年ならどなたでも参加できます。申込は各教会へ届く案内をご覧ください。

締切 3月21日(火)



瀬山司祭による説教

直接知らない私ですが、神様の導きにより、その歩みに加えられたことを感謝し、ここからまた共に歩んでいきたいと思えます。

(神戸聖ヨハネ教会信徒)
 塔田恵里